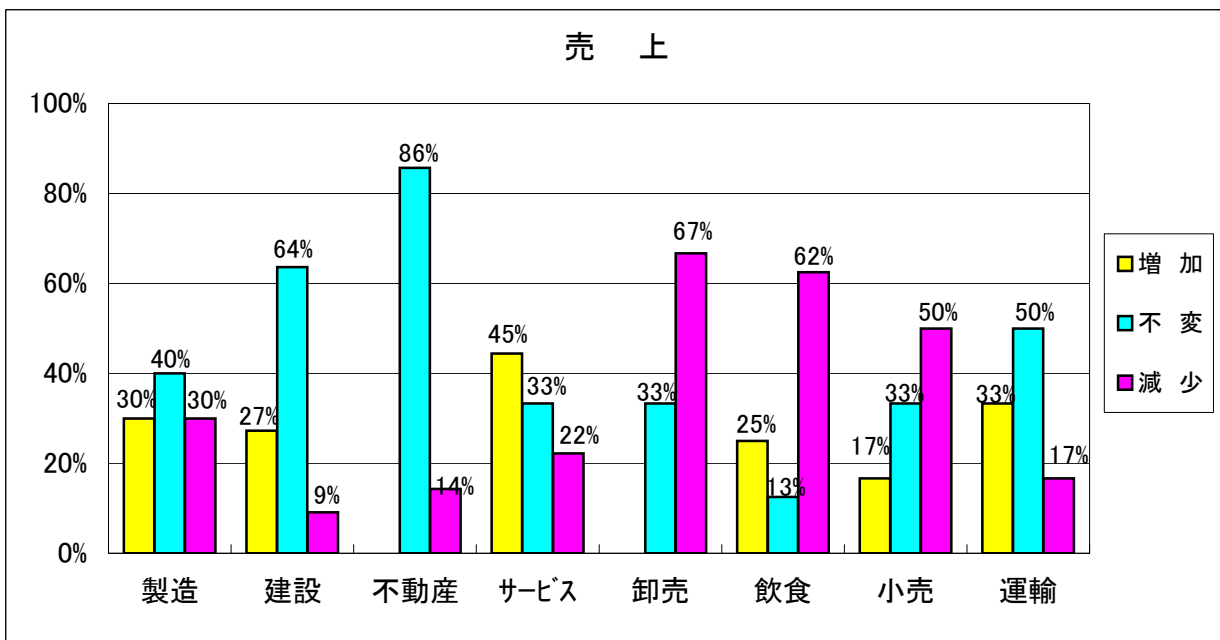


調査1 令和元年7月～令和元年12月の水準が、前年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と令和2年上期の見通しについて比較表示してある。

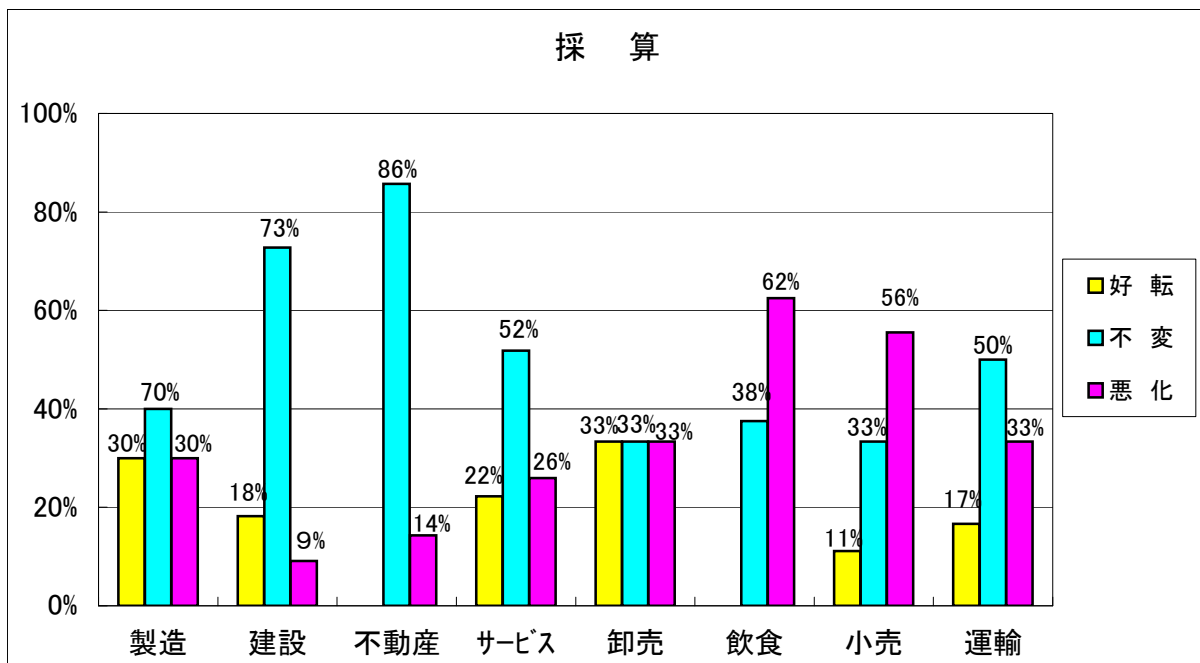
### ①売上について

全体的で見ると「増加」が28%（前回23%）、「減少」は32%（前回30%）と、前回調査に比べると売上が5%増加、減少も2%増加した。その中で、売上「増加」が見られたのがサービス業（45%）であった。一方、「減少」が顕著なのが卸売業（67%）であった。



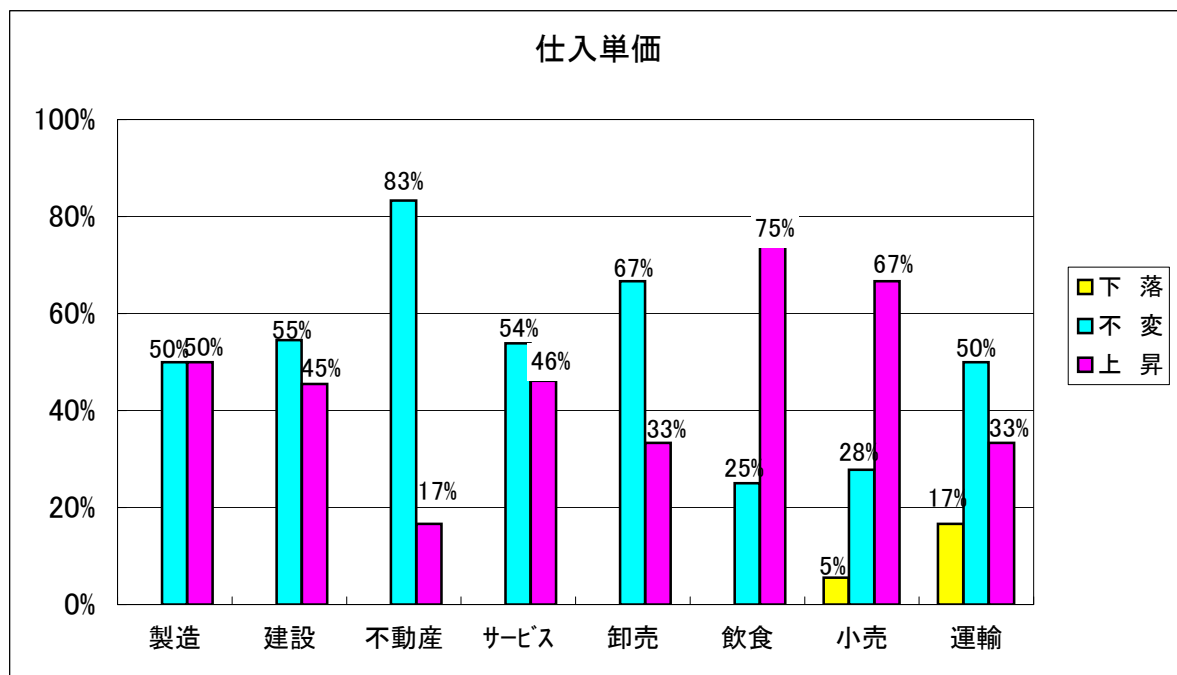
### ②採算について

全体で見ると、「好転」17%（前回11%）、「不変」50%（前回61%）、「悪化」33%（前回28%）であった。業種では前回調査と同様に飲食業（62%）、小売業（56%）が「悪化」し、厳しい状況であった。



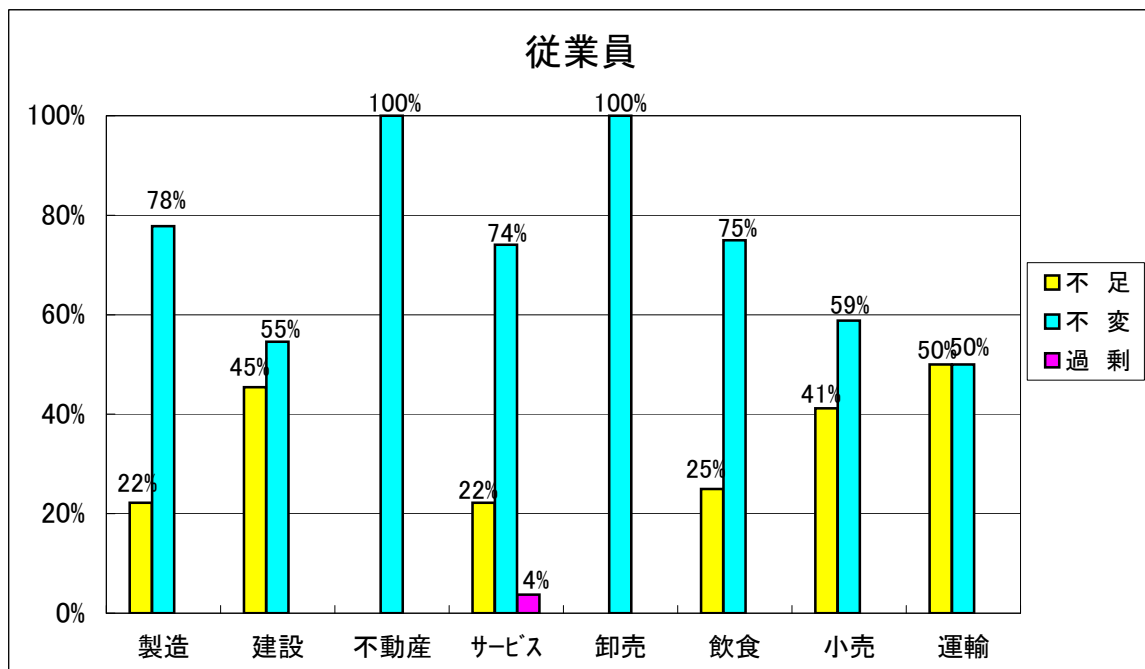
### ③仕入単価について

全体的には「上昇」が50%「不変」が48%であった。仕入単価の「上昇」顕著なのが、飲食業75%（前回73%）、小売業67%（前回47%）であった。

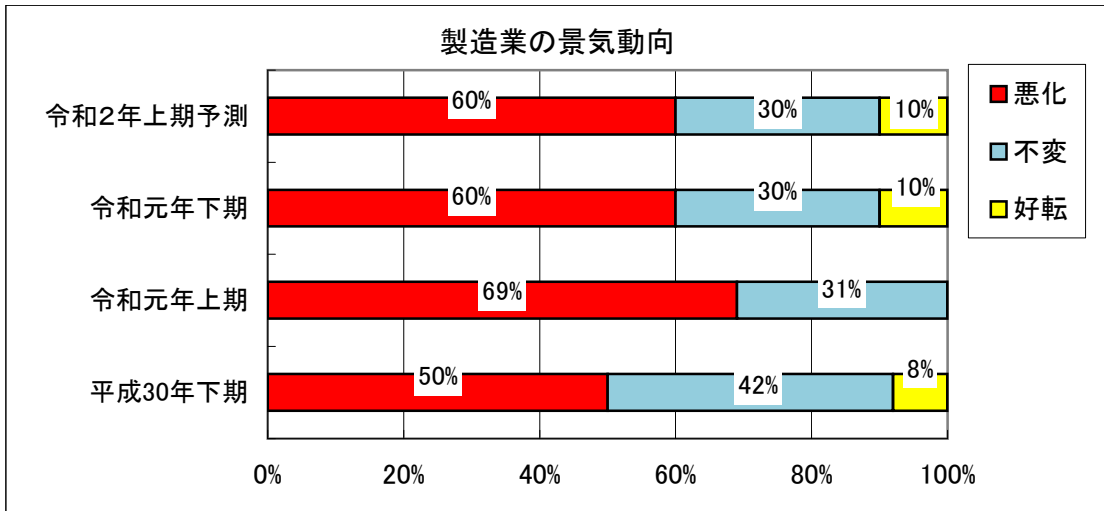


### ④従業員について

全体的には「不足」が29%で、業種で顕著なのが運輸業50%（前回40%）建設業45%（前回23%）であった。前回調査と同様に運輸業は不足の状況が続いた。

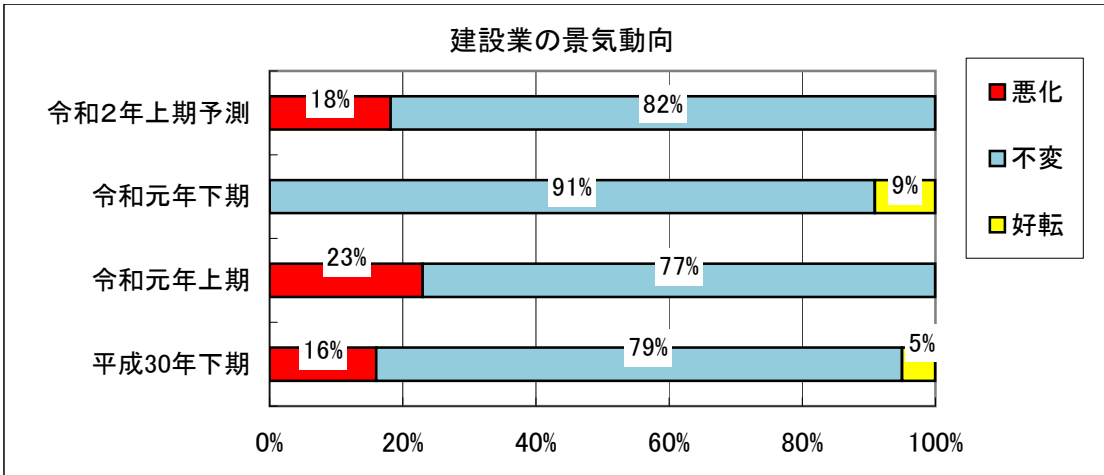


⑤業界の景気動向について



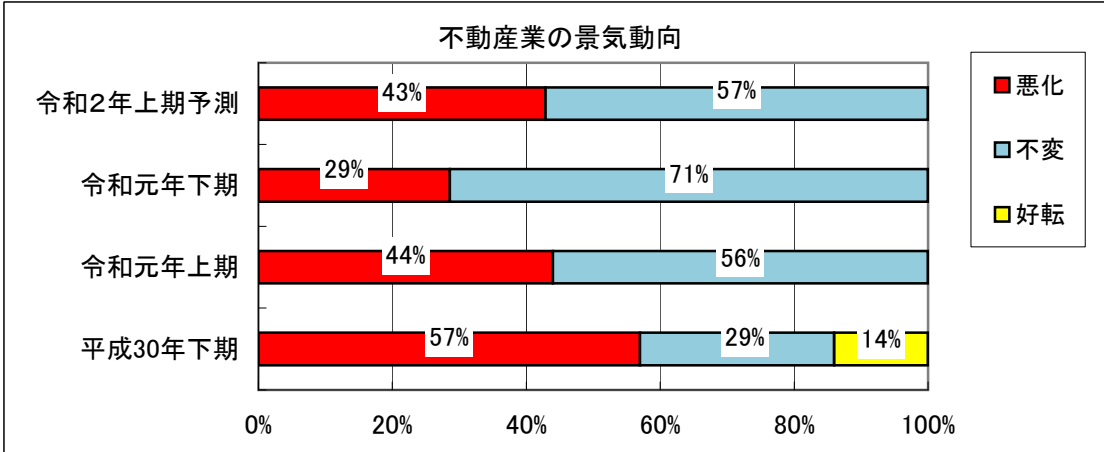
■製造業

令和元年下期では、「好転」10%、「悪化」が60%と半数以上が景気の悪化がみられる。米中貿易摩擦、消費税増税の影響とも考えられる。令和2年上期の見通しは「好転」が10%、「不変」が30%で「悪化」60%との見通しである。



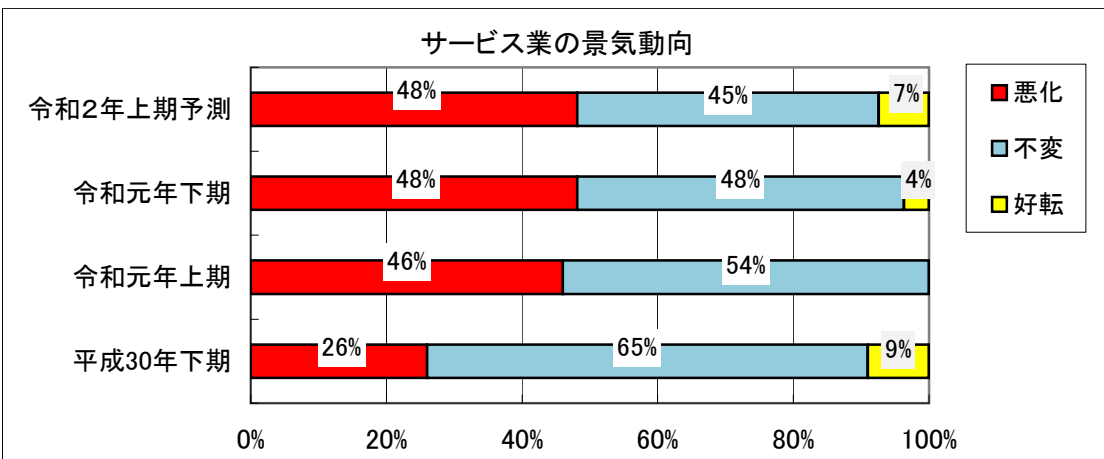
■建設業

令和元年下期は、「好転」が9%、「不変」が91%で「悪化」なかった。オリンピック需要がみられた。令和2年上期では「好転」は無く、「悪化」は18%との見通しでありあまりよくない状況である。



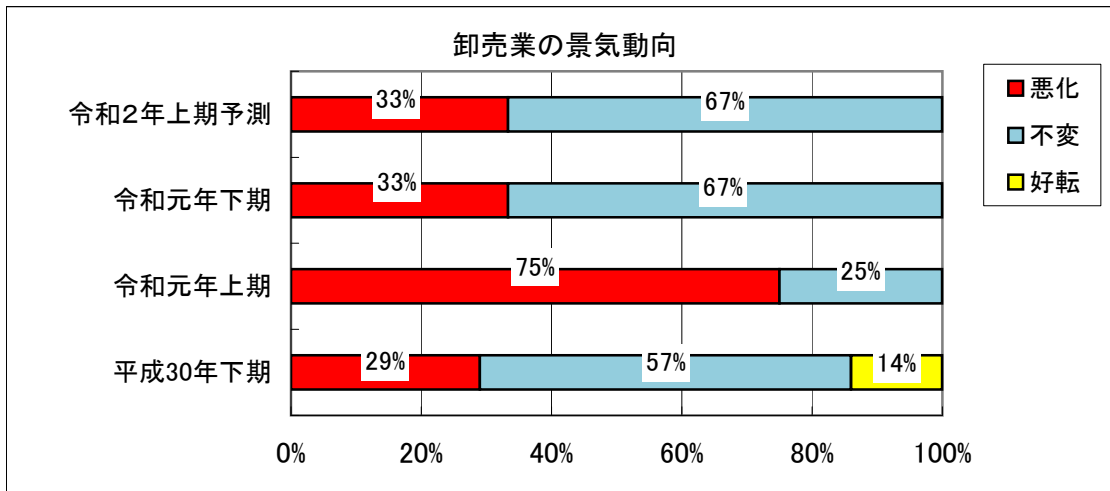
■不動産業

令和元年下期は、「好転」は無く、「悪化」が29%であった。令和2年上期も「好転」の見通しがなく、「悪化」が43%との見通しでさらに厳しい状況である。



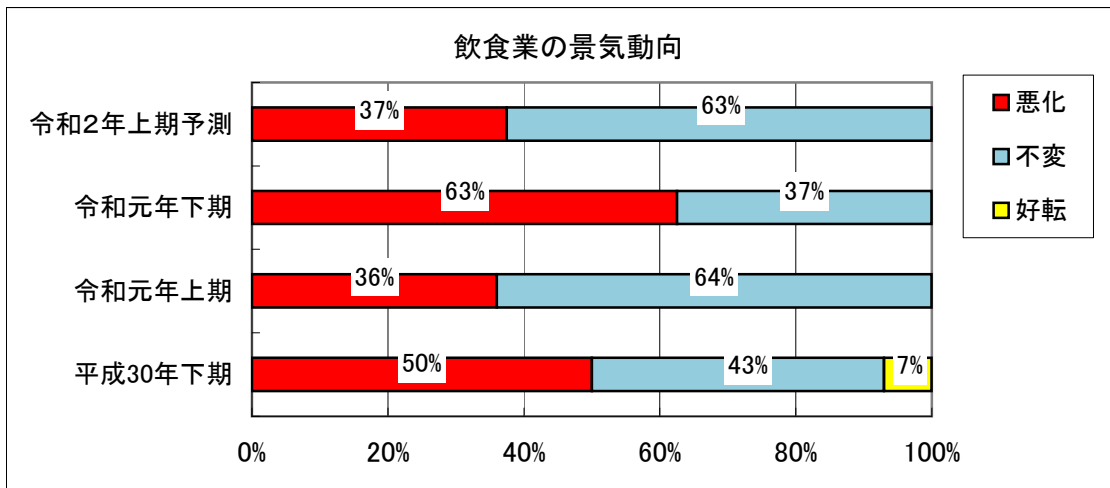
■サービス業

令和元年下期では、「好転」が4%、「悪化」と「不変」がともに48%であった。令和2年上期は「好転」が7%の見通しで若干上向きの感があるが、「悪化」が48%であった。



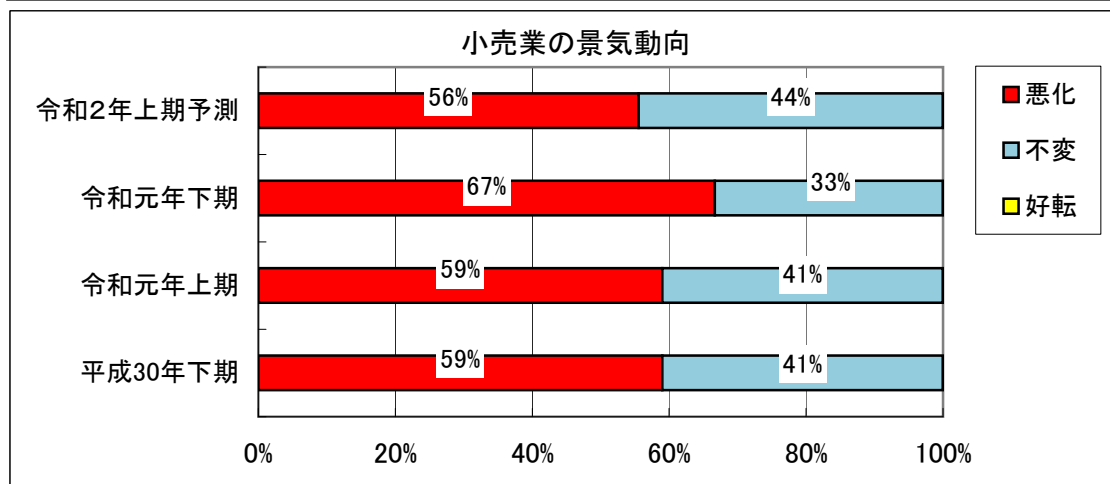
#### ■卸売業

令和元年下期は「好転」が無く、「悪化」が33%、「不変」が67%と前回調査よりは悪化は減少している。令和2年上期では、「悪化」が33%、「不変」が67%と依然として厳しい見通しとなっている。



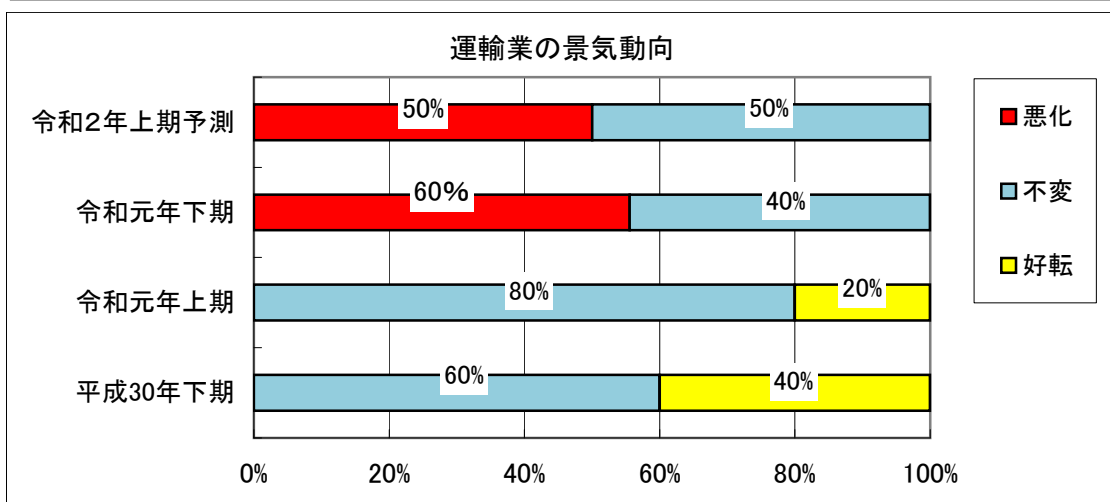
#### ■飲食業

令和元年下期では「好転」は無く、「悪化」が63%と急激に後退している。仕入の高騰、消費税増税、人件費高騰の影響が考えられる。令和2年上期は「悪化」のポイントは減少しているものの「好転」は見られず厳しい見通しとなっている。



#### ■小売業

令和元年下期は、「好転」がなく「悪化」が67%と悪化傾向が強い。令和2年上期の見通しも「好転」の見通しが無く、「悪化」が56%とかわらず厳しい見通しとなっている。

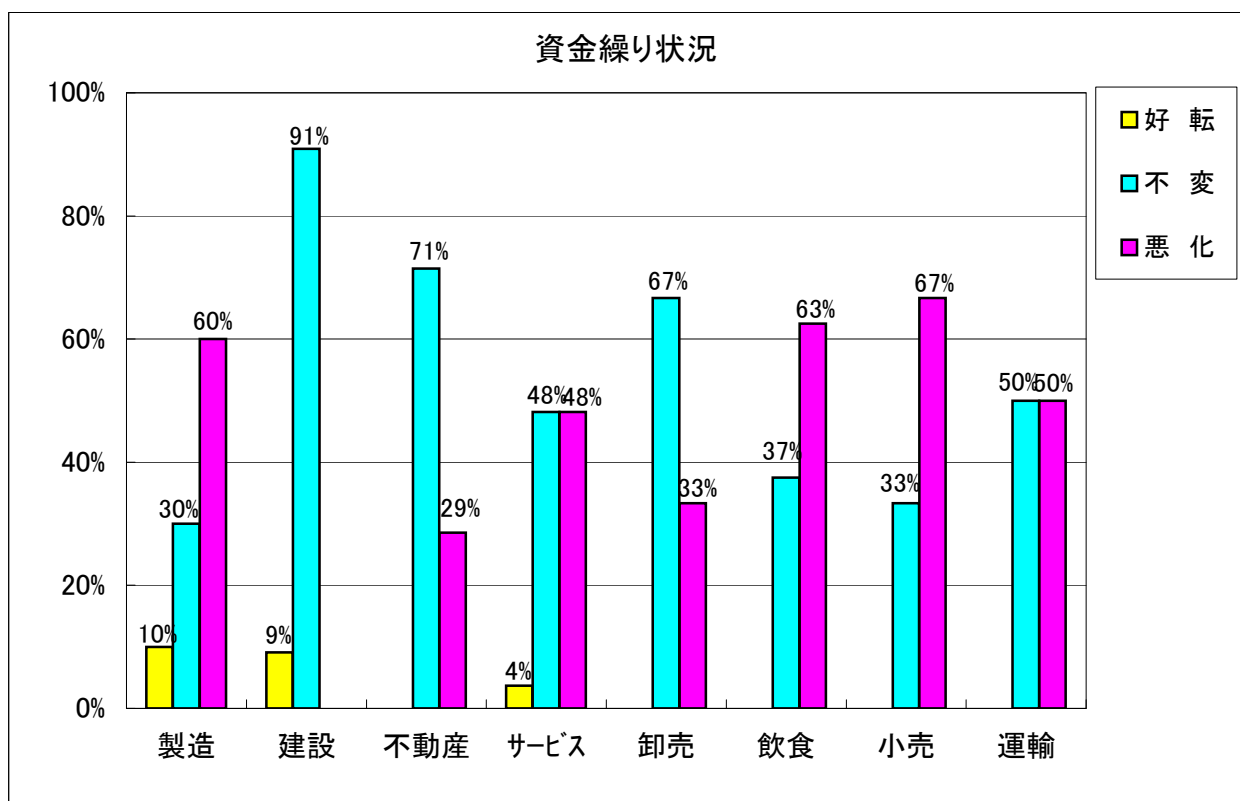


#### ■運輸業

令和元年下期は、「好転」がなく「悪化」が60%と昨年の上期と比べると景気の後退がみえる。慢性的な人手不足及び人件費高騰が響いている。令和2年上期も半数が「悪化」の見通しであった。

## ⑥資金繰りについて

全体で見ると「不変」が77%（前回84%）、「悪化」が19%（前回14%）、「好転」が4%（前回2%）と回答している。業種で見ると小売業（67%）・飲食業（63%）で悪化傾向が強くみられる。



## ⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が57%（前回56%）、「融資無し」が23%（前回30%）、「緩やか」「厳しい」が共に10%（前回7%）であった。業種で見ると、飲食業38%の企業が厳しいと回答している。

